

定期上映会 戦傷病者の証言

当館では、戦場での負傷等により多くの苦勞を抱えながら生きてきた戦傷病者とそのご家族の証言を映像で記録し、その数は開館から今日にまでに約200本になりました。
今回の上映会では、展示室でも紹介している戦傷病者を中心に上映します。

上映場所:しょうけい館2階 シアター

上映期間:2023年10月25日(水)~12月27日(水)

上映時間:10:00~17:00

上映休止:11月4日(土)/5日(日)/12日(日)/12月10日(日)
いずれも13:00~14:00

生きる・・・それは死ぬよりつらかった

毎時00分
より上映

昭和19年7月、駆逐艦に乗艦中、空襲により両腕と左眼を受傷。生きる気力を失い何度も自殺を考えた。病院で多くの重傷患者と出会い生きる希望を得、リハビリ訓練を受けて社会復帰を目指した。21年10月、医師の薦めで手首を割って手指代わりにする手術を受けた。子供と遊べない辛さ、子供がいじめられるのを恐れて授業参観に行けなかった寂しさなどを語る。

人生を変えた一発の銃弾

毎時10分
より上映

昭和17年9月、中国河北省の戦闘において敵の手榴弾により右背部受傷。更に20年6月、右足受傷。ガス壊疽と破傷風の危険があり、軍医から切断を告げられた。重傷者だけが残され、1年3カ月間中国を放浪、言語に絶する身障者の苦しみを体験した。

平和の光を見つめて

毎時20分
より上映

弱冠16歳で志願の入隊を果たした少年は昭和20年1月、満洲へと出征する。その後、実戦を経験することなく終戦。そして翌21年1月、中国の金州での強制労働中の事故により、右眼の視力を失う。復員後、その苦悩を察した父親の紹介で就職。そこに、障害を克服して生きる道を見出す。

感謝の心、妻にしたためて

毎時34分
より上映

戦傷病者の妻の語り。昭和15年4月、夫は中国浙江省で頭部に銃弾を受ける。初年兵に自分の鉄兜を貸した、その瞬間の出来事であった。内地還送後、東京で療養中に看護婦をしていた証言者と出会い、故郷の新潟で結婚する。左半身の麻痺と度々起きるてんかんの発作に苦しめられた。後年、遺品より見出された書面は妻あての遺言であり、そこには深い感謝の念がしたためられていた。

◆上映時間以外でも、情報検索機にてご覧いただけます。◆団体プログラムにより変更となる場合もあります。